

浜松ウエルネス・ラボツアーを実施

「浜松ウエルネス・ラボ」

「予防健康都市（ウエルネスシティ）」を宣言している浜松市や民間企業で構成している官民連携プラットフォーム「浜松ウエルネス・ラボ」は、このほど同市で展開されている医療・健康増進のリソースを実体験するための浜松ウエルネス・ラボツアーを実施した。

同市は、ウエルネスシティを実現するために「浜松ウエルネスプロジェクト」を2020年から展開している。「浜松ウエルネス・ラボ」は、同プロジェクトの一角を担い、民間企業、スタートアップ企業、国立大学法人・浜松医科大学、社会福祉法人・聖隷福祉事業団などで構成。市民の「疾病・介護予防」や「健

康づくり」に寄与する「浜松発」の社会実証事業やイベントなどが行われ、データやエビデンスなどを取得・蓄積している。

ツアーでは、医科大学として国内初の起業家精神（アントレプレナーシップ）育成プログラムを導入した浜松医科大学や聖隷福祉事業団が運営する「浜松市リハビリテーション病院」や

介護付き有料老人ホーム「浜名湖エデンの園」の施設を見学したほか、リニューアル工事が終わり24年1月に稼働したばかりの浜松医療センターでは、最新の医療機器やドクターヘリのインフラ施設なども実体験した。また、ラボの会員企業でもある地元企業、スズキ(株)が運営する

「スズキ歴史館」も訪問し、同社の歴史を通じて浜松のモノづくり精神にも触れた。意見交換会には、浜松市医師会の滝浪實会長も訪れ、会員などとの交流を深めた。

参加者からは、「実際に現場を訪れて、改めて地域で社会実証を行う重要性を認識できた」「浜松が持つ『やままいか精神』（やつてみようIIチャレンジの意味で用いられる）に触れることができた貴重な機会だった」と前向きな反応が寄せられた。



浜松市リハビリテーション内に設置されたリハビリ用の運転シミュレーター。



浜松医科大学では、起業家精神（アントレプレナーシップ）育成プログラム的一端に触れた。